

演題 1 : スポーツによる脊椎・脊髄損傷の治療

講師 : 埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター 講師 井口浩一 先生

要旨 : 脊椎・脊髄損傷はきわめて重篤な後遺症を残すことが多く、特にスポーツによる脊椎・脊髄損傷は若年者が多いため、社会的、経済的損失は深刻である。そのため発生防止に力を注ぐべきであるが、不幸にも発生した場合のために、後遺症を最小限に食い止めるための手段、知識を持つ必要がある。わが国の脊椎外科治療は、おそらく世界でもトップクラスの技術と経験を有していると考えられるが、実は大きな落とし穴がある。それは、脊椎・脊髄の病気、疾患の患者数が莫大であるため、その治療に忙殺され、脊椎・脊髄の外傷治療が埋もれてしまっていることである。病気と外傷は全く異なるアプローチで治療すべきであり、欧米では当たり前の外傷センターが日本には整備されていないことが問題である。もしわが国に脊椎・脊髄損傷を超急性期に治療する外傷センターがあれば、後遺症はどう変わるであろうか。当センターにおける治療経験を紹介する。

略 歴

氏名 : 井口浩一 (いのくちこういち)

生年月日 : 昭和 36 年 10 月 9 日

昭和 63 年 3 月	東京大学医学部卒業
昭和 63 年 4 月	東京大学医学部附属病院整形外科研修医
平成元年 7 月	日立総合病院整形外科
平成 2 年 7 月	都立北療育医療センター整形外科
平成 3 年 7 月	横浜労災病院整形外科
平成 5 年 1 月	都立墨東病院救命センター
平成 6 年 7 月	東京大学医学部附属病院整形外科助手
平成 8 年 1 月	埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター助手
平成 16 年 8 月	同 講師
平成 21 年 5 月	(兼任) 帝京大学医学部附属病院外傷センター客員准教授
平成 27 年 4 月	(兼任) 帝京大学医学部附属病院外傷センター客員教授 (兼任) 総合南東北病院外傷センター非常勤医師

専門 :

救急外傷、整形外科外傷、脊椎外傷、骨盤外傷

資格 :

日本整形外科専門医、日本救急科専門医

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

ICD (infection control doctor)

学術活動 :

EOTS(emergency orthopedic trauma symposium) 世話人

JABO(Japanese association for biological osteosynthesis)世話人

JOTS(Japan orthopedic trauma society)世話人

日本骨折治療学会理事

日本外傷学会理事

演題 2 : アスリートとスポーツ医学のつながり

講師 : 学校法人上武大学 客員教授 /

2004 年アテネオリンピック女子ハンマー投日本代表 室伏由佳 氏

要旨 : アスリートにとって、自身の最高のパフォーマンスを発揮し、スポーツ現場で長く活躍し続けることは、多くの困難を伴うと感じられる。パフォーマンススキルを向上させるために行うトレーニングを始め、競技会への参加など、多種多様な状況や場面において、運動負荷を繰り返すことの代償によるスポーツ障害などの諸問題を抱えるケースは多くみられる。そこには、身体の機能の不具合の調整なども加わり、実に複雑なコンディショニングを並行しながら、ピークパフォーマンスへの道程を目指すことになる。また、女性とスポーツの関わりについても、その特性に合わせたサポート体制が現在急ピッチで整備されている状況にある。

個人的な体験としては、アスリート時代、腰部脊柱管狭窄症や胸郭出口症候群、四辺形間隙症候群、肘部管症候群などのスポーツ症候群を経験した。特に、腰痛に関しては、2004 年アテネオリンピック出場の翌年、2005 年から 2011 年までの間、重篤な症状であるものの確定診断がつかない状況が続いた。また、婦人科的疾患（子宮内膜症、子宮内膜ポリープ）と手術の体験があり、女性特有のサポートが必要であると実感した。アスリートとスポーツ医学の関わりについて、個人の体験をもとに事例的に取り上げ、その重要性を紹介したい。

【略歴】

- ◇1999 年 3 月 中京大学体育学部体育学科修了
- ◇2006 年 3 月 中京大学大学院博士課程後期体育学研究科満期退学
スポーツ認知行動科学(体育学修士)
- ◇2016 年 4 月～順天堂大学スポーツ健康科学部博士後期課程在学 (精神保健学研究室)

【競技歴】

- 2004 年 アテネオリンピック陸上競技女子ハンマー投日本代表
- 2005 年 世界陸上競技選手権ヘルシンキ大会女子ハンマー投代表
- 2007 年 世界陸上競技選手権大阪大会女子円盤投代表
- 2010 年 アジア大会(広州)女子ハンマー投 銅メダル
女子円盤投 (58m62)、
女子ハンマー投 (67m77) 2 種目の日本記録保持者 (2016 年 7 月現在)
日本陸上競技選手権大会女子円盤投 10 連覇・
通算 12 勝、女子ハンマー投通算 5 勝

【大学講師・資格等】

- 2013 年 学校法人聖マリアンナ医科大学スポーツ医学講座非常勤講師
- 2014 年 国立大学法人徳島大学医学部非常勤講師、奈良県立医科大学非常勤講師
- 2015 年 3 月～2016 年 9 月 明治国際医療大学客員教授
- 2016 年 上武大学客員教授、朝日大学客員准教授、浜松医科大学非常勤講師、中央大学非

常勤講師

【資格・委員】

- ◇日本陸上競技連盟普及育成委員会・普及育成部委員
- ◇国際陸上競技連盟 CECS レベル 1 コーチ
- ◇公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 アスリート委員
- ◇中学校・高等学校教諭専修免許（保健体育）
- ◇日本ピラティス指導者協会マットピラティス指導者
- ◇上級救命技能認定

【メディア活動】

- ◇2012年ロンドン五輪（ゲスト解説者）テレビ朝日
- ◇2013年世界陸上モスクワ大会（競技解説者、アスリートコメンテーター）TBS テレビ
- ◇2014年仁川アジア競技大会(アスリートプレゼンター、インタビュアー) TBS テレビ
- ◇2015年世界陸上北京大会（競技解説者、アスリートコメンテーター）TBS テレビ